



第177回例会

例会場 函館拓銀ビル

例会日 毎週水曜日

12.30～13.30

事にあると共に、献血した方が不幸にして輸血を必要とする場合は、献血による保存血液を優先的に還元保証される仕組みになつて居ります。

道内の保存血液状況は昨年で年間12,114本の需要に対し9,969本を自足し、残余を管外移入で補う。渡島管内では1日50本の需要に対し自給数は30本と言う不安定な実情であり献血に就いては特段の御関心と御配慮を御願ひ申します。献血で最も問題になるのは、からだに影響ないかと言う事であり、血液の量は、体重の13分の1といわれて居ります。200°Cの採血量は、体重50kgの人では、全血液量の5%にしかすぎません。12%まで心配ありません。よつて採血により健康がそこなわれる事もなく、平常の仕事が続けて差支えありません。然し献血により血清肝炎等の疾患になる場合がありますので、献血者には検診をなし適不適をきめて健康の方のみと強い規制をして居ります。古代から死者に赤い色素をかけて再生を祈る宗教儀式は存在した様ですが、医学の立場で輸血に成功したのは1929年(今より138年前)で、英国で先鞭をつけました。然し当時は血液型に対する学究が不完であり、色々と障害が発生し一時禁止されましたが、60年程に血液の型が究明されてから長足の進歩を遂げ第一、第二世界大戦で現在血液医学の決定的基礎が完成された次第であります。血の歴史は人間の歴史であります。皆さんの今後一層の御厚配を賜わります様、切に御願ひする次第であります。

一週一言 「百聞は一見に如かず」

第353区ガバナー 渡辺綱彦氏

(ロータリーの友 11月号より)

ロータリーは人造りであり国づくりである。ロータリー僅か64年で世界130ヶ国、会員60万名と言うすばらしい発展をとげた所以である。創設当時は会員4人、交通機関も発達しなかつた時代だから、主に手近かな地域社会の奉仕にとどまつた事であろう。而し現在ではこれにとどまらず、東南アジア諸国を始め、また沢山の世界社会の機会があると思う。今回レークブラッソの国際協議会に出席して目のあたりにこの目で見、また生の声をきいて多くのロータリアンと話し合いをしたら、何かしらロータリーの真髄にふれた様な感じになり、「百聞は一見に如かず」の古いことわざがピンと感じました。時代と共に奉仕の対象を代えてこそロータリーは常に若々しく発展し、マンネリズムにおち入らないだろうと思う。

◎ ロータリアンとしての

あなたの資格を効果的に

ルーサーH. ホツジス会長指針

本日のプログラム  
スライド「よりよき世界を創るために」

- ※ 司 会 侯野会長
- ※ 斉 唱 奉仕の理想
- ※ ビジター 野口誠一郎君(小樽・酒類) 世木沢登君(旭川・酒類)  
新開春吉君(森・商工会議所)  
日下部久次君外9名(函館) 西村敏雄君外6名(函館東)
- ※ 幹 事 報 告
  1. 例会終了後理事会を行ないます。
  2. 函館R.C 12月21日の例会は23日17時半～(於拓銀ビル8階)と変更になりましたので御注意下さい。
  3. 札幌々南R.C 12月22日の例会は家族会をかねて17時半～(於北海道経済センター)に変更。
- ※ ニコニコボツクス
  1. お誕生日おめでとう 杉本隆治会員
  2. ご結婚記念 〆 外山会員・高杉会員・山内会員・新会員  
岩塚会員
  3. 入会記念 〆 侯野会長・市川会員・高杉会員・平野会員
  4. 御事業拡張 〆 塚田会員(石油スタンド)
- ※ 出 席 報 告
  1. 本日の状況 会員36名 出席28名 欠席8名
  2. 前回確定率 会員36名 出席30名 欠席6名  
他クラブ出席4名 出席合計34名 94.44%
  3. 他クラブ状況 函館R.C 94.23% 函館東97.33%
  4. 月間出席率 函館北 94.44% 函館東 94.33%  
函館～未達

◆ 会員卓話

「石油について」

木下 賤雄君

その成因と将来に就いて学術的に解明されていないものの一つに石油があげられる。古くは、金属カーバイトや酸化炭素のような無機炭素化合物が水と反応して石油になつたと言う説もあつたが、石油の成分に関するくわしい研究が進んだ結果、現在ではこの種の無機説はほぼ否定され、太古の生物体の成分が変化して出来たと言う有機説が支配的であります。海中にすんでいたプランクトンの様な生物の死骸が地層中にたまって種々の作用を受け変化して石油になつたと言う説が有力ではあるが完全に証明されて居りません。また将来性所謂埋蔵量となれば今後30年位は需要に耐える。いや採掘機械の進歩と調査技術の高度の研究で50年位は大丈夫だと言う説もその信憑性に就いては疑問であり無尽蔵ではないが、その将来に就いて論議する事も必要ないのでないかと言うのが業界の意見であります。

『石油の一滴は血の一滴なり』と絶叫せしめた石油は第一欧州大戦後の石油需要拡大につれて、激しい資源、市場争奪戦を演じ日本をして大東亜戦争に突入せしめた大きな要因とも言われて居ります。日本での石油需要の歴史は明治時代に始まつた次第ですが、数字としては全く零に等しく大正時代でも発電所船舶に利用された程度。急激な需要増となつたのは昭和12年頃で年間500万キロリッターと記録されて居ります。敗戦に依り総べてを失なつた石油業界は朝鮮戦争の昭和26年G・H・Qの石油製精装置の解禁に依り息をふき返し高度経済成長政策と相俟つて昭和32年1,400万トン、昭和40年7,900万トン、42年1,000万トンとなり、民官需含めて500万トンで戦争に突入した昭和12年を想起する時、感に耐えざるものがあります。

現今日本人口1億として1人当り消費量は1トンであります。世界の生産高は1965年で30億キロ、中東62%、アメリカ11%、ソビエト9.5%、極東3%、その他14.5%であり、かつての主生産国のアメリカは輸入国であります。身近な問題としての道内需要は通産局統計に依れば昭和41年320万キロで重油40%、揮発油20%、灯油12%、機械油18%、その他10%で重油の全国平均が60%と比較し道内の産炭地保護政策の特殊性が見られます。然し暖房用灯油の消費量は41年度35万トン、本年の需要数は55万トンと大幅の数字が予想されて居り、工業用アスファルト需要数全国平均0.5%を超過する2%と共に将来の進出が予想されて居ります。

東京3,400万キロ、九州780万キロ、四国、九州400万キロの消費量に比し道内消費は最下位ではあります。開道100年今後の経済開発に依り石油需要の拡大は注目すべきものと存じます。



The Weekly Report of Hakodate North R.C.

通算 194号

1968-12-13

Rotaryクラブ

第178回例会

例会場 函館拓銀ビル

例会日 毎週水曜日

12.30~13.30

本日のプログラム

「クリスマス家族会」

いと高きところでは、神に栄光があるように、  
地の上では、み心にかなう人々に平和があるように。  
(ルカ2.40)

◆ 司会 俣野会長 ◆ 斉唱 手に手つないで

◆ ビジター 中瀬公一君(江差、採石)

梅津福次郎君外10名(函館)坂野鉄男君外11名(函館東)

◆ 会長報告

師走の候とて何かしら、あわただしさを感じます。本日は多数のビジターの御参集があり厚く御礼申し上げます。

1. 山形会員が仙台西R.C.のバナーと交換して参りました。
2. ハワイR.C.ニュージランドR.C.よりクリスマスカードが参りました。

◆ 親睦委員長

1. クリスマス家族会出席の有無通知は金曜日まで必着願いたし。
2. プレゼント交換品には表面に名刺を必ずつけて。

◆ ロータリーだより (例会日、例会時間変更のお知らせ)

1. 釧路R.C. 日時12月24日(日)PM.3:10~  
場所 銀の目(釧路市末広町2丁目)
2. 室蘭R.C. 日時12月21日(木)PM.5:30~  
場所 中央町 ニューブラザー
3. 森 R.C. 日時12月16日(土)PM.5:30~  
場所 森町産業会館

来る1968年1月3日(水)の例会は休日のため休会となります。

4. 網走R.C. 日時12月26日(火)PM.5:00~  
場所 山水閣ホテル
5. 弟子屈R.C. 日時12月16日(土)PM.5:00~